

## 大学院博士後期課程 人間発達科学専攻(発達臨床心理学領域)

### 博士論文提出基準

- 1 発達臨床心理学領域における下記のステージ制の基準を満たしていること。

### 博士論文審査基準

- 1 当該分野における新たな知見を提出し、当該分野の研究の進歩に寄与するものであること。
- 2 関連分野の先行研究が十分かつ適切にレビューされていること。
- 3 自立した研究能力を有するとともに、関連分野に対する深い学識を有すること。
- 4 研究倫理について十分な配慮がなされていること。
- 5 研究から得られた知見の臨床的適用とその限界について十分な検討がなされていること。

### ステージ制 発達臨床心理学領域

博士論文提出の要件として、教育ステージ及び研究ステージにおいて、原則として以下の要件を満たしていることとする。当該要件を満たした上で博士論文を提出し、所定の審査と公開審査を経て博士の学位が授与される。教育ステージについては、大学院前期課程在籍中(本学および他大学)における活動、業績を認めることがある。研究ステージについては、本学大学院後期課程入学前5年間の活動、業績を認めることがある。

#### 教育ステージ(9ポイント以上)

- 1) 必修ポイント5 P

コースワーク (8単位以上)

「臨床心理学研究論(基礎)」「臨床心理学研究論(発展)」を必修とする

- 2) 臨床・教育経験ポイント4 P

下記①～⑤からいずれか2項目を満たすこと

- ①臨床実習・経験 2 P (心理面接・査定事例担当)
- ②事例報告論文 2 P (心理臨床相談センター紀要、外部機関誌)
- ③事例発表 2 P (心理臨床相談センターカンファレンスにて事例発表)
- ④TA・RA 実績 2 P
- ⑤非常勤講師経験 2 P (他大学・短大・専門学校等)

#### 研究ステージ(9ポイント以上)

原則として、「査読がある雑誌に3本の論文(単著もしくは申請者が第一著者のものに限る)が採択・掲載されていること」「3本のうち少なくとも1本は学会誌・専門誌であること」「合計9 P以上を獲得していること」の3つの要件を満たすこととする。

- ① 学会誌・専門誌の例は、心理臨床学研究、カウンセリング研究、心理学研究、教育心理学研究、応用心理学研究、発達心理学研究等である(関連誌はコース教員にて判断)。
- ② 和文の学会誌・専門誌は論文1本につき3 P、インパクトファクター(IF)のある英文学会誌・専門誌は論文1本につき5 Pとする。
- ③ 学会誌・専門誌以外の査読がある雑誌は論文1本につき2 P(本学心理臨床相談センター紀要、論叢、他大学紀要・報告書等)とする。
- ④ その他の研究活動は1 P(学会発表(ポスター、口頭発表、シンポジウム等。ただし、第一著者のみに限る。)、学会賞の受賞)とする。また、第二著者以降の著者として学会誌・専門誌に採択・掲載された論文がある場合は、1本までに限り2 Pを獲得することができる。

例	計
カウンセリング研究1本(3P)、センター紀要2本(2P×2)、ポスター発表2回(1P×2)	9P
心理臨床学研究2本(3P×2)、発達心理学研究1本(3P)	9P
心理学研究1本(3P)、センター紀要1本(2P)、人間文化創成科学論叢(2P)、口頭発表2回(1P×2)	9P

## 発達臨床心理学領域の早期修了基準

### 博士後期課程

ステージ制に記載されている、博士論文提出要件として提示されている教育ステージと研究ステージの要件を満たし、博士論文審査基準を満たしていれば、早期修了の審査の対象とする。